大阪ケイオスは、参加企業各社の有形・無形の資産を「ものがたり」として発信して活用するとともに、みなさまの多くのニーズにきめ細かくお応えいたします。

Osaka Chaos News

VOL.01

2016年11月発行

大阪ケイオスの名前は“大阪”が持つ高度なものづくり基盤に、大阪持ち前の元気な“人”のエネルギーが満ちた状態を英語のChaos(ケイオス)と表現してつけた名前です。

㈱大阪ケイオス
代表取締役 和泉康夫

Chaos Topic 連携による／研修の新しい カ・タ・チ

左：給与と売上については現金を並べて説明
中：安全について、実際に金型を落として実感させる
右：非日常の中で苦楽を共にするブートキャンプ

手づくりの研修は 右腕となる人を育てるメソッド

大阪ケイオスでは、“経営者自らが新入社員を育てる”こと、外部の講師に依存することなく、“各社の教育ノウハウで教える”ことを徹底し、自社のプログラムを構築。目標は将来経営者の右腕になる人材に育てること。そのために必要な、営業力、思考力、プレゼン力を内定の時期から教えている。

合致しないコンテンツ

新入社員研修の多くは、専門講師が非常にわかりやすく、時に激しい演出で、新入社員が退屈しない様に様々な工夫を施しながら指導する。しかし、インパクトやその場の気付きが大きい印象的な研修は、実践（日々の業務）で役に立たないケースも多いのではないだろうか。そこで私達経営者は、社会人のスタートアップに大切なことは何なのか、どのように人を育てるべきかについて、膝をつき合わせて考えた。そうして生まれたのが経営者による手作りの研修だった。それは、まず入社 2 日目に経営者とともに“ビジョンノート”を考える。

さらに入社 1〜2ヶ月の間に、社会人として大切なことを、経営者たちが自分の言動で教えていく。時に経営者たちの言葉は難しく、新入社員には理解し難いことがあるかもしれないが、生々しい体験となり、本音の言葉は深く心に残る。そして、数年たってその本当の意味がわかってくる。

5年後の自分を考えるビジョンノートを発表

スタートは内定を出したときから

通常、内定者と社員が次に会うのは入社する4月1日。それまで何の連絡もとらない会社もままある。時には内定辞退ということも。新入社員の採用においては、受け入れる企業側の準備が大切である。そのため大阪ケイオスでは内定者の頃から、「内定者ミーティング」を実施する。目的は経営者と内定者が信頼関係を築くこと。経営者たちが内定者たちに親のように世話を焼いて不安を取り除き、打ち解け合う合う雰囲気をつくっていく。この段階ではお互い本音で接することができるのもメリットである。入社する頃には少なからず会社のことも知り、スムーズに会社に馴染んでいく。

型にはまらない「一生心に残る会社紹介」で経営者自ら珈琲を振る舞う

技術は自社で教える、そしてコンソで伝えること

私たちのカリキュラムに技術研修はない。製造業に不足している要素＝営業について、経営者が自ら教える。経営者の言葉はストレートだが、自らの失敗と経験から掴み取った教訓が滲み出ており、経営者同士にも良い刺激になる。今まさに仕事が安価な海外に流れ、東大阪に 10,000 社あった製造業が今や 1/2。これから生き残って行くためには、真剣に 10 年後 20 年後のことを考え、会社自体が変化し、世界に目を向け、自立していかなければならない。そして、経営者たちが進める“会社改革”の意思を理解して実践する社長の右腕人材として、自社の特徴をもとに自社の強みを知り、未来を語れる社員に育てたいと考えている。

6 社の工場を続けて訪問。名刺交換や手土産の礼儀など実践で学ぶ

自社を知り、他社を知る

社員にとって他の会社を知る機会はほとんどない。同業他社や異業種との交流は時に会社を変える大きな情報をもたらすが、その役割は経営者が行う場合がほとんどだろう。異なる企業の社員同士が、仕事以外に交流するきっかけはめったに無い。しかし、新入社員が外の風を呼び込む存在だとすればどうだろう。入社時から将来を考え、他社の情報を知っている社員は当然自社の未来を考える。それは先輩社員たちとは違った視点かもしれない。結果、会社が大きく変わっていく可能性が膨らむのだ。

研修の集大成としての展示会。入社 2 ヶ月で企画から、当日の接客までをこなす。
現場での失敗、挫折は今後の大きな糧となる。

技術人こそマーケットを知れ

これからの製造業は“匠の技”だけでは通用しない。求められるのは営業力。高い技術を持つ技術人がお客様と商談できることで、より深い提案、より高いレベルの案件の受注が可能となる。技術を極めつつもその技術について魅力的に、戦略的に PR できる人材こそが重要である。

市場は日本だけにとどまらない。自社の技術を活かせる場は世界に目を向ければ意外な所にあるかもしれない。また、技術を他の製品の加工に応用できる可能性もある。今まで思いもかけなかったものを自社の技術でつくり、全く新しいユーザーに提供する可能性もあるだろう。今後もっと大きな世界を見て、会社を導いてくれるのは若い世代の社員たちだ。自社の製品や技術を深める取組みをそれぞれの企業内で進める一方で、若い世代の社員が持つあらゆる可能性を高め広げる活動を、私たちは大阪ケイオスで展開していこうとしている。

未来の社会を考えるグループディスカッション。
自社の SWOT 分析に繋げる

Program

11 月　3 月
内定者ミーティング

内定者に経営者自らが歩み寄る。人生の先輩として触れ合う時間を創出。

1. 自己紹介

型にはまらず自分を表現する。

2. 一生忘れない会社紹介

映像、寸劇など経営者が工夫をこらし実施。

3. 経営理念について

経営者の思いに触れる。

4. イノベーション人材へ

どんな社員になってほしいかを伝える。

5. ブートキャンプ

経営者と非日常の中で信頼関係を築く。

6. 千秋楽～先輩社員との座談会

先輩社員から入社後の本音の話を聞く。

4 月　3 月
新入社員研修

経営者による手づくり講座。全てを社員と経営者が実践的に進めていく。

1. 社会人としての心構え

○安全講習～ビジョンノートの作成

経営者と新入社員が一緒に未来を考える。

2. 工場萌えツアー

他社の風土、文化に触れ自社を知る。

3. 企業戦略と情報運用

○SWOT 分析

自社を取り巻く環境、強み、弱みを先輩といっしょに考える。

4. 自社のプロモーション

○自社紹介の撮影実践

○自社プレゼン

5. イベント企画～プレゼン実践

展示会やフォーラムなど企画から運営まで自分たちで行う。

2 年目　3 年目・・・
中堅社員研修

中堅社員の発想を豊かにし会社のイノベーションを目指す。

1. 新聞活用研修

読売新聞社様ご支援のもと、文字を読み解き、感性を高める。

2.HAZAITHON（ハザイソン）

ハッカソン形式で端材アップサイクルを実施。社員の普段使わないクリエイティブ脳、コミュニケーション力を刺激する。

特集 端材アップサイクルプロジェクト 大学の講座から生まれたブランド

ゴミ箱(waste)をひっくり返して生まれるものという意味の造語、etsaw(エットソー)は学生の案から出てきた。学生と工場とクリエイターを結びつけたこのプロジェクトは、今大きな広がりを見せている。

etsaw
Upcycle Project of Osaka University

端材の可能性

工場から日々排出される端材や不良品。再利用を考えず処分するのが当たり前だし、効率もよい。しかし、3年前アーティストを工場に連れて行った際、端材は素材に変わり、そして商品になった。当たり前だと思っていた端材を今一度見直すことで、会社を変えるヒントが見つかったのだ。今までゴミとしか見ていなかった端材の価値を考えることは、クリエイティブ脳も刺激する。違った視点からの見方、ユーザー視点からの商品開発は、学生だけでなく社員の価値観を大きく変えるのだ。

端材アップサイクル講座

「学生の創造力を養ってほしい・・・」との依頼を受け、2014年より大阪大学で"端材アップサイクル講座"が始まった。学生を工場に連れていくとそこには彼らの全く知らない世界が待っていた。工場で端材の出る現場を体感するのだ。さらにプロのクリエイターと話をしながら、アイデアを広げ固めて行き、加工では工場の職人さんに交渉し思い通りのものを創ってもらう。最後は実際に売り場に立ち、接客をし販売するのでお客様の反応をダイレクトに受けることになる。売れるか売れないか、自分の商品開発の答えがはっきりと出る。この講座は常に実学である。学生にとっては、実は大きな人脈造りと自分の将来を考える機会となり、企業にとっては"常識"を覆すイノベーションとなる。
大阪ケイオスでは、端材を活用したハッカソン(※1)も実施しており、規格化された工業製品の中には見い出せない豊かさにも目を向けている。

※1　端材を使った商品開発を"ハッカソン"という形で、学生や社会人など様々な立場の方を交えて実施。

学生の開発した商品。
実際に商品化し、販売に至ったものも。
(下段左 シャンパングラス、下段右 エンジンバルブチェス)

ケイオスの社窓から

塗装職人が創った オリジナル製品

双葉塗装株式会社

ステンレスの素材と塗装技術で何か商品が出来ないかと思い、塗装職人が作ったブランド“PA”(※)。家族団らんで心がときめき、食事をしながら楽しい会話が生まれ、笑い声が響くお手伝いができれば楽しい、という想いから生まれたのがカトラリーです。先ずは、「観て触れて感じて、おおっと！」を楽しんでください。

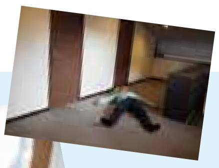
我々は産業用設備機械の部品に金属の焼付塗装を施しています。自社の技術を磨き、その技術のファンになって頂き仕事に繋がればいいのにな〜と考え始めました。我々の想いを突き詰めていくと自社ブランドが欲しいと考えるようになっていきました。想い始めて10年という月日が経ってやっと、たくさんの方の応援があり想いが叶いました。今後も幸せな家族のPAであり続けます。

※PAの意味は
P＝ペインターズ（塗装職人）・プリンプ（着飾る・きちんと）
A＝アトラクティブ（魅力的・人を引きつける）

美しく塗装したステンレスのカトラリー PA

塗装でオシャレで機能的なガラス瓶に

工場の中に憩いの場 ここから変える



株式会社枚岡合金工具

工場長屋の一角。工業用ガスの貯蔵室と思しき鉄の扉をあけると、木と癒やしの空間だった。主に枚岡合金工具の社員さんが食堂として使っており、通称“枚岡食堂”と呼ぶらしい。一般の食堂と違うのは、床は木の床、椅子も革張りのまるで夜のラウンジのような佇まいである。テーブルも重厚な木の一枚板で、足が鉄なのがいかにも工場らしい。社員さんは、工作機械の世界から、全く別世界の木の世界を行き来し、スイッチのオン・オフを切り替えているのだろう。

“社員さんの交流と、健康な食事による元気な社員、元気な会社”を目指していると古芝社長は言う。なるほど、厨房も本格的な機器が揃っており、社員さんが腕を奮っている。完成して2ヶ月、見事にここは社員さんの憩いの場であり、元気の源となっている。

本格的な厨房では社員さんがシェフとして腕を振るう

昼休みには社員さんが揃う、交流の場に

OSAKAN DREAM

マツダ株式会社

ミクロンレベルの精度で作られたアルミ製ブロック それがメタロック

大阪ケイオスの（有）Flow Design Studio代表取締役の大宮篤士氏（プロダクトデザイナー）×マツダ株式会社代表取締役松田英成氏（ものづくり企業）のコラボレーションで「ワクワクするものづくり」がしたいという情熱と大人の「童心」で誕生したメタロック。

代表作にはイベント出品したニューヨークのブルックリンブリッジを模したものがある。金属素材の重厚な質感や美しさ、強度や耐久性の高さを生かし実際の1／200スケールの吊橋を、自動車や産業用のねじ部品製造のマツダの匠の技で製作し、インテリアとして金属以外では味わえない新たな価値を提供している。現在はメタロックのピース販売用の製品化に向けて準備中である。乞うご期待！

ロックグラス片手に大人の「ちょっと豊かな時間」を過ごしてみてはいかがでしょう？さあMETAROCK で何作ろう？

メタロックのブルックリンブリッジと大宮氏、松田氏

NY のブルックリンブリッジに立つ松田氏

Osaka Chaos Member & Office

株式会社 大橋金属工芸 worldeagle.co.jp/	株式会社 三栄金属製作所 sanei-1970.com/	株式会社 新日本テック www.sntec.com/	枚岡合金工具 株式会社 www.sg-loy.co.jp/	有限会社 Flow Design Studio www.flow-design.co.jp/	株式会社 吉武工務店 www.yoshitake.ne.jp/
有限会社 川上製作所 www.kss-sayama.jp/	株式会社 三協製作所 www.sankyo-seisakusyo.co.jp/pc/	田代珈琲 株式会社 www.tashirocoffee.co.jp/	福地金属 株式会社 www.fukuchi-kinzoku.jp/	マツダ 株式会社 www.matsuda-fastener.co.jp/	株式会社 レイ・クリエーション www.raycreation.co.jp/
カワソーテクセル 株式会社 www.kawaso-texcel.co.jp/	清水電設工業 株式会社 www.seavac.co.jp/	日本精機 株式会社 www.enginevalve.co.jp/	双葉塗装 株式会社 www.futaba-toso.co.jp/pc/	モノプラス 株式会社 www.mono-plus.jp/	

【発行】
株式会社 大阪ケイオス
www.osakachaos.com/
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 3-1-8
カルボ高麗橋ビル（1・2F）
TEL 06-6232-0338/ FAX 06-6233-0371